

## 平成二十八年年度採用試験問題

### 【民法】

Aには、妻Bとの間に子C、Dがおり、また、妻B以外の女性Eとの間に非嫡出子Fがいた。以上を前提として、次の各設問に答えよ。なお、1と2は独立した問題である。

1 Cは、A所有の土地PをAに無断でGに売却し、所有権移転登記を完了した。その後しばらくしてAは死亡したが、近隣にショッピングモールが建設される計画が持ち上がったところ、今後土地Pが値上がりすると見込んだCは、本件売買契約は無権代理によるものだったとしてGに移転登記の抹消を請求した。Cの主張は認められるか。

2 まだ幼いFの将来に不安を感じていたAは、死亡の数日前に、所有していた現金千五百万円全てをFに贈与しており、Aの死亡時には、Aの財産は土地Q（時価九百万円）のみであった。Aの死亡から数日後、Aの相続人らは、遺産を整理していたところ、預金通帳から現金が全て引き出されていたことに気が付き、Fへの贈与の事実を知ることとなった。

(1) Dの遺留分額及び遺留分侵害額はいくらか。

(2) Aが死亡したのは平成二十七年五月一日であった。その後、平成二十八年二月一日にDについて後見開始の申立てがなされ、同年六月一日に後見が開始し、成年後見人としてHが選任された。選任後まもなく、Hは、Dの遺留分についてFに対し遺留分減殺請求権を行使したいと考えた。この請求は認めら

れるか。